

「やさしい日本語」文書作成のポイント



「やさしい日本語」の文書作成には、もともとの文書を「日本人にもわかりやすい簡潔なもの」にすることが必要です。以下の点に気をつけて、まずは、わかりやすい日本語の文書にしましょう。

「英語で書かれていたら、読むか」という視点で考える。

- 「やさしい日本語」は外国人にとって母語ではありません。日本人にとっての英語と同じだと考えてください。
- 「英語で書かれていたら、辞書などを使って読んでみよう」と思える分量ですか？

情報量を絞る。

- 「やさしい日本語」は、ルビをふったり、分かち書きを行ったりするので、日本語で書くより分量が増えます。
- 同じページ数に収めるには、思い切って 1/2～1/3 の情報量にする必要があります。

大切な情報は、落とさない。

- 何についての文書か、という大前提をわかりやすく書きます。（意外と抜けていることが多いです）
- 「行うことが義務であること」、「相手に費用負担等を求めること」は、必ず書きます。
※「すべての住民は健康保険に加入しなければならない」「毎月保険料を払う必要がある」など
- 「行わないと不利になること」や「罰則」については、必ず書きます。
※「保険料を納めないと、保険証を返還しなければならない」など

イラストや写真、図や記号を使ってわかりやすくする。

- イラストや図を使って、視覚的にわかりやすくします。（例：ゴミ袋の有料化のお知らせ）

ゴミ袋の種類と値段については、以下のとおりです。

- ・赤色半透明…燃えるゴミ
45ℓ = 45円 / 30ℓ = 30円 / 20ℓ = 20円 / 10ℓ = 10円 / 5ℓ = 5円
- ・青色半透明…燃えないゴミ
45ℓ = 45円 / 30ℓ = 30円 / 20ℓ = 20円 / 10ℓ = 10円 / 5ℓ = 5円
- ・無色半透明…資源ゴミ
45ℓ = 20円 / 30ℓ = 15円 / 20ℓ = 10円 / 10ℓ = 5円

種類	袋の色	45ℓ	30ℓ	20ℓ	10ℓ	5ℓ
燃えるゴミ	赤い袋 	45円	30円	20円	10円	5円
燃えないゴミ	青い袋 	45円	30円	20円	10円	5円
資源ゴミ	透明な袋 	20円	15円	10円	5円	—

表にしてわかりやすくします。
カラーのイラストで、視覚でもわかるようにします

「やさしい日本語」作成までの順序

□ 以下の例を参考に、分量などのイメージをつかみましょう。

「やさしい日本語」にする前に、わかりやすい日本語にすることが、非常に重要です。

＜防災上の注意点：元文＞

津波が発生しているおそれがあり海の中や海岸付近は危険です。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。潮の流れが速い状態が続きますので、注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしないようにしてください。

揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっていますので、今後の地震活動や降雨の状況に十分注意し、やむを得ない事情がない限り危険な場所に立ち入らないなど身の安全を図るよう心がけてください。

過去の事例では、大地震発生後に同程度の地震が発生した割合は1～2割であることから、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度6強程度の地震に注意してください。

＜防災上の注意点：必要な情報を整理したもの＞

津波が発生しているおそれがあり危険です。
海に入ったり海岸に近づいたりしないでください。

揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっています。
危険な場所に立ち入らないなど身の安全を図ってください。

地震発生から1週間程度、最大震度6強程度の地震に注意してください。

＜防災上の注意点：「やさしい日本語」にしたもの＞

これからも ^{おお}大きい ^{じしん}地震が ^お起こるかもしれません。
き
気をつけてください。

^{つなみ}津波 ^{おお}〈=大きい ^{なみ}波が ^{なんかい}何回も ^く来ること〉が ^く来るかもしれません。

^{うみ}海の近くに ^{ちか}行かないでください。

^{いえ}家が ^{こわ}壊れたり、^{やま}山から ^{いわ}岩や ^{つち}土が ^ふ降ってきたりします。^{あぶ}危ないです。

^{こわ}壊れている場所や ^{ばしよ}山の近くに ^{やま}行かないでください。

「やさしい日本語」の手引き

□ 「やさしい日本語」の手引きなど、「やさしい日本語」の作成のコツをホームページに掲載しています。



使おう、「やさしい日本語」。

